

SSKW

巣立ちだより

目次

変革の年を迎えて 1~2
障害者自立支援法 成立 3
退院促進事業 4~5
ピアカウンセリング講座 6
バレーボール大会 チームワーク賞 7
賛助会から 8



新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

変革の年を迎えて

社会福祉法人巣立ち会 田尾有樹子

皆様、新年おめでとうございます。無事新しい年を迎えられたことが心からありがたく、皆様に感謝の気持ちで一杯です。

巣立ち会にとって昨年とはとても忙しいう年でした。4月には巣立ちホーム調布第4が開設し、6月には三鷹市精神障がい者地域生活自立支援事業が始まり、8月には東京都から精神障害者退院促進モデル事業の委託を受け、9月には巣立ちホーム調布が新築のグループホームを建設してもらい転居し、10月には巣立ちホーム三鷹第2が開設し、11月にはこひつじ舎が近くに移転し、そして今年の3月には福祉ホーム巣立ちが開設予定となっています。

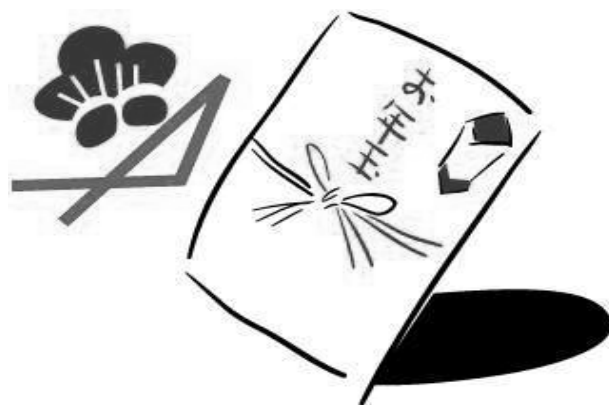
委託の事業を2つも受けられたこと、また、長年申請しても認可されなかった巣立ちホーム三鷹第2が、国基準とはいえようやく認められたことは、私たちの地道な活動が評価されたことと本当にうれしく思っています。また、退院促進モデル事業については、昨年本格的に取り組んでみて、まだまだ住まいさえあれば地域の一員としてささやかな自由を享受しながら人生を取り戻していく人たちが沢山いることを実感しています。



33万人の入院中の精神障害者、260万人とも言われる全国で精神障害をわずらっている人たち、私たち巣立ち会はいつもこの当事者のニーズに敏感であることを最も大切に考えています。「NOと
いわない授産施設（作業所）」をモットーに、利用希望者をお断りすることはしないこと、社会資源が足りなければ作っていくことを、出来得る限り実行してきました。

本年は障害者自立支援法が施行されます。早速、4月からグループホームが新法の適応になり、10月からは授産施設などの通所の事業が続きます。

今、私たちは新しい仕組みの中でどのような事業を展開していくかを勉強中です。今回の法律の素晴らしいところは、訓練等事業が国の義務的経費になることによって、私たちが手を上げれば、財政難などを理由にグループホームや訓練事業を起こしていくことを、市区町村が断ることが出来ないことです。このことは場合によっては、爆発的（？）に社会資源が増えていく可能性を秘めているのです。利用者のニーズさえあれば、あとは私たちのやる気と力が試されるということです。



この障害者自立支援法には、利用者の自己負担がかかるなど従来なかった利用者にとってのマイナス面も確かにあります。でもそれをこれまではできなかった社会資源の充実を実現するチャンスと捕らえ、未来を私たちのものにしていきたいと心から願い、また実行していくべく、新年の抱負にしたいと考えております。

巣立ち会がここまで活動を展開してこられたことは、支えてくださる皆様があってのことだと思っております。これからも私たちを見守り、ご助言やご支援をいただきたく、よろしく願いいたします。

「巣立ち会 第3回 愛のふれあいコンサート」開催が決定しました

開催日：7月3日（月曜日）

場所：調布市文化会館たづくり くすのきホール

開場：18時（予定）

開演：18時30分（予定）

出演者：ベアンテ・ポーマン氏（チェロ）

御辺 典一氏（ピアノ）

後援：玉の肌石鹸・ミヨシ石鹸株式会社

詳細につきましては次号でお知らせいたします。ご期待下さい。

障害者自立支援法が成立しました

去る10月31日の国会で、障害者自立支援法が成立しました。

この法律は、従来の身体・知的・精神に分かれたサービス体系を統合し、共通の仕組みで提供することを定めるなど、画期的な内容である一方、精神科通院医療費公費負担制度を廃止し、新しく「自立支援医療費」を導入したり、施設利用費を利用者負担とする「応益負担」の制度も加わり、関係団体からも賛否両論があるなかでの成立となりました。

この法律の施行にともない、来年度から障害者福祉・医療サービスの枠組みが大きく変わります。そのために法律成立後、急ピッチで新制度の概要が厚労省などから発表されてきております。

しかし、法律の細目はもとより、全体像についてもまだ未確定な部分が多い（当初うたわれていた障害者の一般雇用や住居支援の推進策などはいまだ未発表）ことや、障害年金など所得保障制度の見直しなどには言及がないことなどに、利用者からはとまどいの声があがっています。

また、施設サービスを再編成するという一方で「5類型6種類」の制度が説明されていますが、従来の共同作業所訓練事業と、その発展形ともいえる小規模授産施設の移行先や、それぞれの補助金額がはっきりと示されていないことがあり、さらには施行にともない、かなり煩雑な事務作業の発生が予測されるなど、関係者も不安を抱きながら準備を進めているのが実情です。

当会では、厚労省から発表された資料や、各種の学習会などの情報を集めて、整理をおこなっています。今後は、施設の事業計画の見直しや新規サービスの開拓も検討していきます。



講演会のお知らせ

三鷹市精神障がい者地域自立支援事業 **クラブハウス講演会** を開催します

内容； 都内のクラブハウス3ヶ所からそれぞれ当事者や関係者をお呼びして、施設説明や体験談などを話していただきます

（クラブハウスとは、職員とメンバーが対等なパートナーとして運営にたずさわり相互支援をおこなう、世界的に広がっているリハビリテーション・モデルです）

日時； 3月8日（水） 14時～16時30分

場所； 三鷹市産業プラザ 704・705 会議室

参加費は無料です

お問い合わせは当会まで（担当；長門）

退院促進事業

当会が受託した退院促進支援モデル事業は、その後パンフレットを作成するなど、順調に進んでおります。

12月12日現在、申し出があり面接を実施した精神病院入院中の方が**延べ43名**となり、その内**16名**が当会の通所施設に通ってきています。皆さん「退院したい！」という気持ちが強く、退院を目指して頑張っています。

申し出があると、主に病院に当会スタッフが行き、お一人ずつ面接をします。まず、事業の説明を行い、退院の意思があるか確認します。退院の意思がある方には、これまでの生活や、現在の状況などをうかがい、最後に当会の施設の案内をします。

皆さんのお話を聞いて、「支援があれば退院できる方がまだまだいるのではないかと強く実感しています。当会の利用者による出張講演を聞いて、退院する勇気もらったという方も多いようです。

また、病院に当会スタッフが出向き、看護師や精神保健福祉士といった専門職の方々などに、当事業のご説明をさせていただくことも同時に実施しております。当事業のことを初めて知っていただいて、「入院中から作業所に通うことで、アパートまで世話をしてくれるというのはありがたい」と共感して聞いてくださる方もいます。

もともと当会は、精神障害者が地域で生活するお手伝いをするために作られたので、今までもさらにこれからも「地域に300人の退院者」（当会の田尾の口癖ですが）を目指していきたいと思っています。

あなたも地域で生活してみませんか？

- 「一人暮らしには不安があるな・・・」
- 「相談できるところが欲しいな・・・」
- 「話せる仲間がいるといいな・・・」



そんなときには、**単立ち会**にご相談ください！！

アウトリーチ
(外部出張サービス)

退院促進事業における重要なプロセスとして、当会では外への働きかけを積極的に行っております。

主に行っている活動には、**出張講演・啓発活動・利用対象者面接**などがあります。

アウトリーチって？

< 出張講演 >

退院を経て、現在地域生活をしている巣立ち会のメンバーおよびスタッフが病院の病棟に出向き、入院患者さんと病棟の職員さんに対して自己の体験談や具体的な情報についてお話しします。

出張講演では和やかな雰囲気の中で、メンバーと患者さんとの活発な質疑応答やディスカッションが交わされます。メンバーの体験談では、かつて入院していた頃に抱いていた退院への不安やためらい、退院への意欲を持つようになった経緯、退院訓練の様子、地域生活を始めた当初の苦労や喜び、現在の生活など、これまでの体験を振り返っての思いなどが語られます。客観的な情報だけでは伝えることのできない当事者の体験が生き生きと伝えられることで、入院されている患者さんにご自分と重ね合わせて、退院後の生活をより具体的にイメージすることができます。

病院と退院促進の理念や目標を共有し、事業への理解と協力を得るために、当会職員の訪問による事業説明および協力依頼を積極的におこなっております。

< 啓発活動 >

この活動では、病院内に一人、また一人と退院促進の支持者を増やしていくと共に、組織内のあらゆる方々に退院促進支援事業の周知と理解を得ることを目指しています。

具体的には、院長との個別面談、看護師やケースワーカー、OTに対するプレゼンテーション、等を行っております。

< 利用対象者面接 >

退院の意思のある患者さんに対し、必要に応じて当会職員が病院に赴き、個別の面接を行っております。これまでの生活や病状、そして退院後の地域生活への希望などをお聞きしながら、共に退院に向けての具体的な計画を立てていきます。

事業を利用中の2人にお話を聞きました

主治医から退院を勧められて迷っていた時に、いいタイミングで病院に説明に来てくれた。病院にいてぶらぶらしていても仕方ないと思って、巣立ち風に通ってみようと思った。

朝の通所が寒くて、病院にいれば気楽だと思うが、来てよかったと思う。

一人でいるとおかしくなるので、皆がいるここで、働けるうちは働きたい。

R氏（M病院入院中、通所1ヶ月）

18年間入院していたので、やっと退院までこぎつけた。主治医も順調だと言っている。

現在は、生活の半分が病院で、半分が巣立ち風になっているので、落ち着かない気持ち。

でも、楽しくやっています。早く新しいパートに退院したいです。

川田氏（M病院入院中、通所2ヶ月）

三鷹市精神障がい者地域自立支援事業

第1回ピアカウンセリング講座

10月26日～28日の3日間、三鷹市産業プラザにおいて第1回ピアカウンセリング講座が開催されました。

初日の午前はオープン講座で、JHC板橋会理事長の寺谷隆子氏に「経験は人生の知恵袋」という題で講演をしていただきました。そして昼休みを挟み、ファシリテーター（案内人）のJHC板橋会の方々も含めて28名が集まり、グループセミナーを行いました。

ピアカウンセリングセミナーは3日間、同じ場所・時間・メンバーで共通の演習を行います。決められた時間の中で考え出した自分自身の思いや意見をみなの前で発表し、分かち合うことが基本スタイルになっています。文字にしてしまうとなんだか難しい感じがしますが、「円座になってみなと意見交換をする」というイメージがつきやすいでしょうか。

まず、テキストを読み合わせ、ピアカウンセリングの基本原則を確認しました。その後、「他己紹介」という演習を行いました。緊張している上に、時間が区切られているため、みな必死に情報をかき集めていました。恥ずかしそうに話す人、意気揚々と話す人、紹介の仕方が様々で、いろいろな方がいるのだなぁと思いました。この日は少し緊張が緩み始めたところで終了。“2日目、3日目はどんな演習があるのだろう。グループの方をも

っと知りたい、話してみたい...”演習を終えて、気疲れもありましたが、期待の気持ちが大きく膨らみました。



（30名近くが丸くなって座ります）

2日目、ほどよい緊張の中、昨日と同じ顔ぶれの方々が集まりました。はじめは名前と顔が一致しなかった方も、発言のたびに自己紹介があるため、徐々に覚えていくことができました。この日も“自分を振り返る”演習を中心に、お互いの考えを述べ合いました。自分と同じように思っている人、全く違った見方で話される人、その内容や考え方の種類の多さに驚き、同時に自分の見聞の狭さに気づかされました。そして「どれが正解で不正解」というものではなく、“ああ、こういう考え方もあるんだ”そう思えたとき、肩の力が抜けたような、楽な気持ちになることができました。

3日目、“自分自身と向き合う”演習を中心に行いました。客観的に自分をみるというのは簡単そうですが、普段なかなかできにくいことです。「自分はこうだ！」と結論をだすことよりもまず、「自分はこのような人なのではないか、こう思う人ではないだろうか？」と“考える過程”、そしてそれを“言葉に出して整理してみる”ということがとても大切なような気がしました。



このような形でみなさんと同じ課題に取り組み、時間を共有し、全ての演習を終えました。最後に修了書を受け取った皆さんの表情は笑顔で充実感にあふれていました。たった3日間、されど3日間、たっぴりと話し合うためだけの時間で、とても有意義で面白い体験をすることができました。

ご興味のある方はぜひ参加し、体験されることをお勧めいたします!!

(巢立ち工房・能上)

引っ込み思案の方でも、知らず知らず、「楽しんで学べる」内容だったと感じました。

講座に参加していて、不思議と、自分が過去に体験した、「いい」思い出ばかりが甦ってきて、自分を今まで、支えてくれた、家族や、ご近所、同僚、自然、国家などに改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。これからも、このような講座を続けて頂きたいと思います。

三鷹ひまわり第3共同作業所 佐藤奈美

バレーボール大会 (巢立ちマンモス劇場)

11月9日(水)に「東京都精神障害者作業所交流祭 バレーボール大会」が東京体育館にて開催されました。

今年は巢立ち風・工房・こひつじ舎の3施設合同でチーム編成し、参加しました。チーム名は去年と同様、「巢立ちマンモス」。

チーム練習は10月から開始し、計5回の練習を行いました。同じ法人内とはいえ、作業所が違うとなかなか交流も少ないもの。1回目の練習では自己紹介を行い、互いの顔を確認するところから始めました。

チーム練習を行う中で、徐々にチームとしてまとまり始め、選手・応援団の士気も上がっていきました。

いよいよ当日。選手・応援団が円陣を組み、いざ出陣。溝口キャプテンがプレーでチームを引っ張り、他の選手も練習以上の力を発揮していました。応援団も負けじと選手を盛り上げ、チーム一丸となり戦いました。結果は残念ながら惜敗。しかしながら、そんな

巢立ちマンモスの姿はきちんと評価されました。昨年に続いて、チームワーク賞を受賞!!



(作戦タイムでの真剣な表情)

「頑張った!今年の巢立ちマンモスは体を張ったプレーが見られるなど皆一生懸命だった。応援団も頑張りと、チームワーク賞が取れて嬉しかった。」と、溝口キャプテンは今大会を振り返ってくれました。「勝つためには練習をもっとしなくちゃいけないね。レシーブ・トス・アタックと3回で返せるようになればいい線行くと思う。今年は皆練習頑張っていたし、上手な人も増えたしね。」と力強く語っていました。

マンモス応援団は、2年連続のチームワーク賞受賞に「応援で試合が盛り上がった!来年もポンポン振って大声で応援だ~!」と喜びを表していました。

...来年の巢立ちマンモスに乞うご期待 !!

(巢立ち風 栗原・渡部)

こひつじ舎作業場が移転しました

新しい作業場は、以前の建物から、コイン
パーキングを挟んだ向いの建物の1階です
(2階に「養老の滝」さんが入っています)

なお、店舗(石けん屋)はそのままの場所で
営業中です。ぜひお立ち寄り下さい。

お礼を申し上げます

この度、財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団
社団法人 東京馬主協会様から、こひつじ舎に車
両の助成をいただきました。

今後、有効に活用させていただきます。
ありがとうございました。

賛助会から

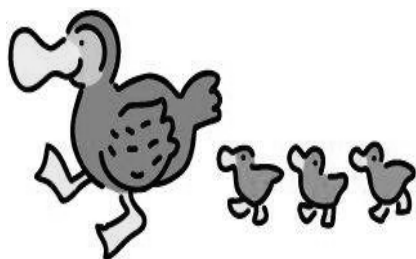
たくさんの方々から、会費やご寄付をいただいております。ありがとうございます。

(平成17年度分として)

河野頼雄様、高橋睦子様、高橋稔様、飯野敏様、清重知子様、高橋柳子様、高須啓邦様、鈴木保様
長谷川病院デイケア科皆様、藤本貞様、大島郁子様、吉田栄信様、大野保様、宇都宮和子様、平岩一江様
慈雲堂内科病院 瀬戸口和久様、ほのぼのふらっとカフェ 丹羽岩夫様、藁谷みち子様、人見由美様
角田和子様、青木鉄次様、藤津清治様

(9月26日から12月16日到着分)

なお、賛助会費振込票は、今年度の会費が未納の方にのみお届けしています。万一納付いただいている方に届いた場合は、当方の手違いですのでご容赦下さるようお願い致します。



賛助会費

年間	一口	3,000円
郵便振替	口座番号	00140-4-542860
加入者名	巣立ち会	賛助会

巣立ち賛助会 会長 國井良彦

編集後記

息子が3歳になった。とても可愛い。親ばかりと
言われても、あの計算されているとしか思えない
ボケっぷりを味わえるのは、近くで見ている人の
特権だと思う。ああ可愛い。本当だって。(長門)

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
定価 50円

編集; 社会福祉法人 巣立ち会
〒181-0014 東京都三鷹市野崎2-6-6
Tel・Fax 0422-34-2761
<http://sudachikai.eco.to/>
sudachi-kaze@sudachikai.eco.to
広報委員会(長門・能上・鈴木)